



- アンモニア燃料エンジンからの GHG 排出対策については、主機か補機かで時間軸や手法も異なる。特に港湾での停泊中は補機からの排出が多く、こちらの対策を先に考える必要はないか。また、N<sub>2</sub>O の除去・モニタリングは簡単な技術ではなく開発は重要。  
→課題の困難さをしっかり認識して取り組んでいきたい。本技術開発は、排ガスが多い主機がターゲットではあるものの、補機へも応用できる技術と考えている。
- IMO では、従来から我が国が各種のルール作りを主導していると認識。本プロジェクトで得られるデータや技術的裏付けも活用し、引き続き主導して欲しい。
- アンモニア燃料補給時の残留アンモニア分離回収システムについては、仲間作りと規格作りを同時に進めていかないといけない。その辺の動きは如何。  
→最終的には公募で実施者を選定することになるが、技術をもっている企業へのヒアリングは進めているところ。既存のプロジェクトでアンモニア燃料エンジン開発を進めている事業者の協力なども得て事業を進める必要があると認識。
- N<sub>2</sub>O の排出対策について、効果を定量的に示せるように進めていただきたい。  
→N<sub>2</sub>O をどこまで削減するのか、業界の目標を検討したい。
- N<sub>2</sub>O 除去のリアルタイム測定とデータ記録をあわせて装置開発を進めてほしい。装置に実装できる状態にもって行ってほしい。  
→しっかりと効果を検証していく。また、社会実装に向けては IMO で測定方式の標準化を図るなど枠組みを整えていくことが必要と再認識。リアルタイム測定もどこまでできるかを検討しルール化に取り組んでいく。
- 温室効果ガスを減らす際に、他への環境影響が出ないように留意していただきたい。  
→他への環境影響が出ないようにモニタリングすることが重要と理解。
- ステージゲートが入っているが、目標と確認事項を明確にしてほしい。  
→1 回目では陸上試験機での必要性能達成度を、2 回目では船上搭載しての実証における必要性能達成度を確認予定。
- アンモニアと水素は様々な分野で議論されている。他事業と連携し重複がないように進めてほしい。  
→無駄な開発とならないように、成果の普及・ビジネス化を含め、業界と連携して国としてやるべきことがあれば取り組んでいきたい。
- 既存のプロジェクトでの開発が世界に先駆けて進んでいる中、今回の追加は、これを社会実装するために必要な技術開発だと認識。うまくルール化を図るなどして、技術で勝ってビジネスで負けないようにしていただきたい。

以上

(お問合せ先)

産業技術環境局 エネルギー・環境イノベーション戦略室

電 話 : 03-3501-1733

F A X : 03-3501-7697